

好きなことを追いかけて。
人生の豊漁をめざします。



魚の供養と豊漁祈願の踊りの名「シットロ」を店名に、“こだわりのカレーと旬摘み紅茶の店”をオープンしたのは、2001年。

室戸育ちの山下裕は、中学の時に姉の影響でかぐや姫や陽水にはまる。独学でギターを習いJAZZに出会う。

長男でもありいずれは室戸に帰るつもりで、高校卒業後に東京へ。仲間とギターをつま弾きながら、将来起業するための資金稼ぎのための職を得る。そして、妻も得る。カフェ経営は二人三脚で。

「カレーが好きで、東京時代もデパ地下で調達したスパイスを使って作っていました。これを見ながら」と取り出したのが、手のひらサイズのレシピ本。使い込まれたページを開くと、エキゾチックな香り。はじめて作ったのは1ページめのチキンカレー。以来、あれこれアレンジして、店の味にしてきた。

「料理上手で働き者。頼りになります」という妻が、とびきりおいしいと評判のパンやドレッシング、デザートをすべて手作り。

「日曜以外はゆったり営業」と言うが、毎日の仕込みは深夜に及ぶ。気分転換は音楽だ。「ひろしとたかし」というデュオを組み、高知市内でライブも続けている。カレーも音楽も、好きなことに一直線だ。先日夫婦で小豆島を旅して、観光の拠点をうまく作っていることに感心した。「室戸も食材がいいだけでなく、それを目指してひとを呼べる何かを作れば」と、スパイスの効いたひとことも。

シットロ
山下 裕・真理子

室戸じと、 進む。